

張允載教授の講演

韓半島の平和・非核化の演説に大きな拍手

「国民日報」

2013.11.08 17:53

<http://p.tl/6pcX>



WCC 釜山総会の最後の全体会議が開かれた11月7日の講演で、張允載=ジャンユンジェ梨花女子大学キリスト教学科教授(51歳・写真)は、スピーチの間に、「しばらく火を消してくれ」と要請した。真っ暗になった会場で、ステージの真ん中の小さなキャンドルが点灯される。ジャン教授は「この小さな私の光」というゴスペルを英語で歌い始める。

This little light of mine

この小さな私の光

I'm gonna let it shine

この輝きのような私でいたいな

参加者たちは大きな声で、リフレインする「レット・イット・シャイン (let it shine)」を歌った。歌を終えた後、張教授は、朝鮮半島の平和と非核化、環境保護をテーマにした講演を続けた。途中、大きな拍手が起こった。

釜山総会全体会議で韓国人としては唯一の演説をしたチャン教授は、8日、国民日報とのインタビューで、「私が提示した課題を信仰的議題として受け入れてくれた拍手に思えた」と感謝して語った。

WCC 韓国準備委員会企画委員会幹事である彼は、釜山総会で議論された"正義と平和"というテーマに、韓国の分断状況などを反映したことで、大きな意味を付与した。「総会のテーマとしては、これまでヨーロッパの教会が主導する中で、しばしば一致 (unity) というテーマが取り上げられていました。しかし他方で、いくつかの分科会を除いて、WCC 全体でこの問題を扱ったことはありませんでした。今回の大きな成果は、韓国とアジアの教会の現実を扱わなければならないという我々の提案が、WCC 全体に受け入れられたことです。」

チャン教授はまた、「原子力発電に使われる燃料棒は永久的な処分が困難な場合だけでなく、福島原発事故のような大惨事を引き起こす可能性がある」とし、「神の創造の世界を汚染させ、後世に伝えることを止めることはできないのだろうか」と強い調子で語った。